

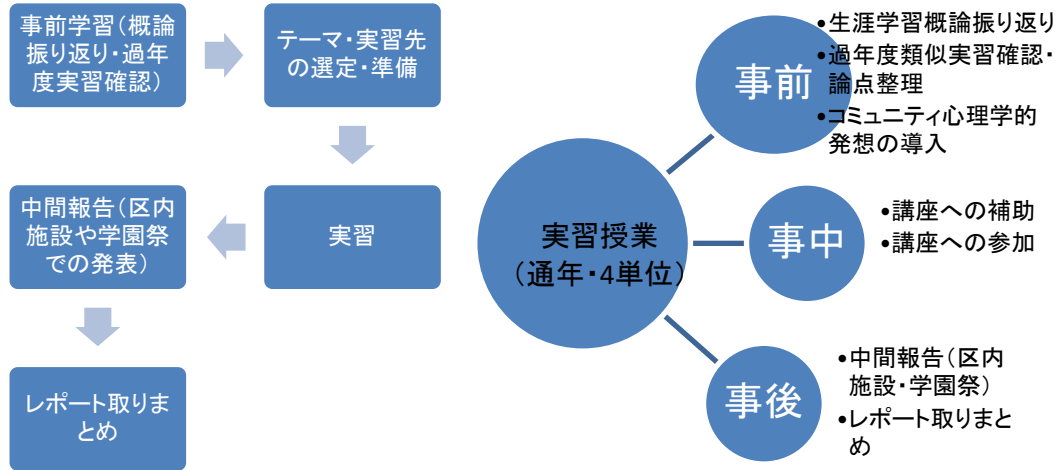
実習先	豊島区地域文化創造館(29年度)
目的・テーマ	高齢者と青少年のコミュニティづくりー地域文化創造館から「都市部の生き方」をみるー
目的・概要	<p>受講学生・実習先の問題意識・背景・目的等</p> <p>地域文化創造館における実習から都市部の生涯学習活動による高齢者と青少年の関わりへの創出可能性について考察。コミュニティ心理学的発想を足掛かりにしながら多様な世代層による学習を契機としたコミュニティづくりについて展望した。</p> <p>概要</p> <p>実習学生は臨床心理学を学ぶ中で、特にコミュニティ心理学に関心をもっている。個人に対する援助を中心とした心理臨床活動を学ぶ中で、個人の問題は個人を取り巻く家族・友人・地域社会・共同体などの全体の問題として捉えるという考え方に強く共感したからである。</p> <p>当実習ではコミュニティ心理学を踏まえ、社会教育主事としてファシリテートを行ううえで、必要な視点や利用者を知ることを行なった。文化都市として力を入れる豊島区の生涯学習施設の役割や利用者の実態を学ぶため、7日間は職員として参加し、利用者として計8日間実習を行なった。</p>
分野	教育・まちづくり(生涯学習活動 高齢者 青少年 コミュニティ心理学)
形態・期間・人数	長期継続・期間9～10月 合計7日間 人数1人
方法	講義・見学・観察・参加・体験・ボランティア・AL・SL
プログラム	<p>(事前)</p> <p>1生涯学習概論で学んだ主要論点を踏まえた他実習学生との意見交換と論点整理 2過年度実習生の報告を踏まえた各施設実習の意義やテーマ、留意点等に関する意見交換と論点整理(地域文化創造館に関する情報の精査作業) 3実習テーマの設定及び実習先の選定に関する意見交換及び関連資料調査 4実習テーマ・実習先の構想・事前調査の報告・発表とディスカッション 5実習に向けた具体的準備・連絡(施設とのアポイントメント・事前打ち合わせ等実施)</p> <p>(事中)</p> <p>1ガイダンス 南大塚地域文化創造館にて担当職員より全体説明 ・今後の日程確認と施設概要の説明 2講座補助・参加活動 (1)ワンコイン落語会(雑司が谷地域文化創造館) ・チケットもぎり・落語鑑賞・後片付け (2)各館施設訪問訪問と役割解説(各館) ・施設の概要・挨拶 (3)文化祭(駒込地域文化創造館) ・展示・場内アナウンス・誘導・体験教室に参加・撤収等 (4)文化カレッジ(駒込地域文化創造館) ・文化祭で声をかけてくださった料理教室の自主グループに参加 ・小籠包やスーラーメンづくり・栄養バランスについての講義 3まとめ 担当職員と実習を通してのまとめ</p> <p>(事後)</p> <p>1展示・発表 豊島区生涯学習施設「みらい館大明」の文化祭及び大正大学鴨台祭での実習中間報告とプレゼンテーション。 2レポートの取りまとめ 実習を通じて触れ合った館利用者のお年寄りとの経験を踏まえ「幸福な老い方とコミュニティづくりについて」、青少年としての自身とのかかわりからレポートをまとめた。高齢者の各種活動の活発な現況や、それらが形成する地域の絆についてコミュニティ心理学的発想を用いながら「高齢者神話というラベリング」「コミュニティ感覚」について考察した。そして、高齢者を中心とするこれら生涯学習活動が、青少年育成活動とつながることができれば、自身が専攻する非行問題に関する臨床心理学的援助において大きな効果があるのではないかと提言したものとなっている。</p>
方法論上の特記事項	

成果	(学生)	(表、グラフ、数値など定量的成果)
	(受入先)	
	(その他、地域住民、連携先等)	

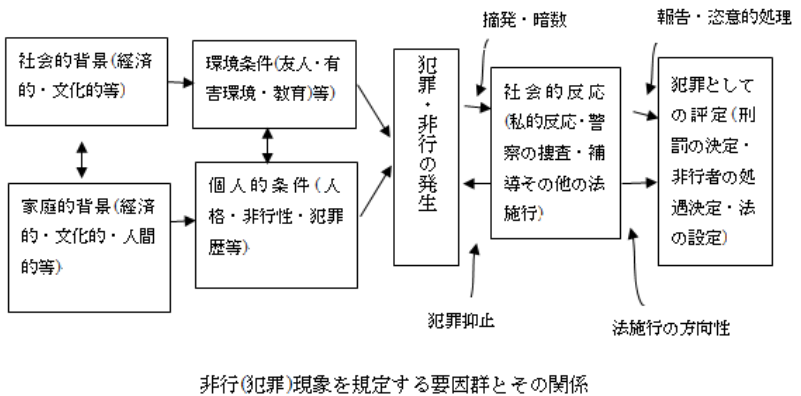
高齢期の学習を目の当たりにし、学習者同士が相互的に学び・成長できるコミュニティづくりが必要だと感じた。コミュニティに積極的に参加し、信頼を得て、能動的に活動しながら学習者の自己主導(自己指導)生を引き出していく態度も大切だ。社会教育主事の以上の役割を意識しながら学習コーディネーターとして活躍していきたいと思いを新たにしたい。

実習で学んだことを、他の生涯施設でも展示発表してくれたことから、当館の周知・発信に寄与していただくこととなり、ありがたかった。

実施イメージ



資料・写真等



実施主体関係情報

としま未来文化財団 <https://www.toshima-mirai.or.jp/>  
 大正大学出川真也研究室 <https://degawaken.com/>